

第2章 ヒアリング調査結果

1) DV被害者

ヒアリング調査にあたっては、DV被害者が置かれていた状況の把握や今後の支援策を検討するため、具体的に被害状況や現在の困りごと、求める支援等についてヒアリングしました。

なお、以下に掲載している各事例は、そのままの実例ではなく、聞き取った内容の趣旨を損なわないよう配慮しながら個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

1. Aさん

【基本情報】

50歳代 現在一人暮らし

パート（事務員） 子ども2人（ともに20歳代）

うつ病のため精神科を定期受診。医師の診察のみでカウンセリングは受けていない。

夜眠れないことがあるため、睡眠導入剤を服薬している。

DV被害の状況

元夫から、結婚後身体的な暴力の他、大声で怒鳴られたり、生活費を家に入れてくれないといったDVを受けていた。

最近は身体的な暴力よりも暴言などの精神的DVを受けていた。

同居していたため、姑からの嫌がらせ・暴言も受けていた。

夫は子どもには手を挙げることはなかったが、子どもの前で暴力を受けることもあったため子どもは面前DVにさらされていた。

現在の困りごとと相談先

夫に住所を知られないようにするため、子どもたちとつながることができない状況にあり、子どものことが心配。子どものことに関しては誰にも相談してはいない。

家を出たときに最初に行った相談先では「貯金があるなら自分でアパートを借りて」と言われて困ったが、民間団体の支援を受けてシェルターに入ることができた。今は自立に向けて住居探しの支援も受けながら動き出している。

子どもについての困りごと

子どもはすでに自立しているが、面前DVがある環境で育っているのでその影響が心配。暴言をDVとしてとらえているのか、子どもは結婚生活をうまくやっていけるのかを不安に思う。また、姑の矛先が子どもたちに向かっているのではないかと思い、心苦しい。

支援につながったきっかけ

テレビか何かで自分もDV被害者だということを認識し、他市町村の広報に載っていた役所の相談窓口に行って相談をした。そこでは希望する支援につながることができなかったため、男女平

等参画推進センターの無料相談を利用したり自分で調べたりし、その後民間のシェルターとつながった。シェルターに入るタイミングで家を出て、現在に至る。
支援を受ける上での困りごと
最初相談するときにどこに行けばいいのかわからなかった。 相談窓口の担当者によって対応が大きく違う。担当者によって認識等に差がある。身体的暴力以外のDVについて理解されていないと痛感した。 貯金があっても自立して生活できるほどの経済的な余裕はないので貯金の有無で支援を判断しないでほしい。
支援であつたらよかったもの
もっとDVについて啓発してほしい。自分も夫を怒らせる自分が悪いと思っていたので、潜在的なDV被害者は多くいると思う。夫婦は対等なんだともっと伝えてほしい。 どんな支援があるか知らなかったなので、それを知れるといい。 もっと気軽に相談できる場所があるといい。 単身用のアパートが少ないため、もっと増えていくといい。 経済的に苦しい時期に、食料品だけでなく、日用品など最低限必要なものがあるととても助かった。 自分の担当者でなくてもいいので、24時間365日対応できる仕組みがあるといい。
その他意見
支援の道筋や先が見えずに不安な日々を過ごしたので、安心できるように、ケースの具体例や結果を提示してほしい。 夫に住所を隠した状態でマイナンバーカードの住所を変更することができない。それによりできない手続きがいくつかあり困っている。隠れて生きているような、地に足がついていないような感覚がずっとある。マイナンバーや住民票を何の心配もなく使えるような生活がしたい。

※個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

2. Bさん

【基本情報】

30歳代 現在施設入所中

無職 子ども1人（小学生）

以前は働いていたが、現在は生活保護を受給している。

DV被害の状況

元夫からの身体への暴力はなかったが、借金があった。相談なく車などの大きな買い物をしたり、風俗で大金を使ったり、使途不明でなくなっていくお金があった。気づいたのは結婚後。

実家に帰省した後、家計の支払いなどがすべて滞っていた。

ちょっとしたことで激高。暴言を吐き、怒鳴り声が近所まで聞こえていた。

アルコールを摂らないと機嫌が悪い。物に当たることはあった。

子どもに対する暴力はなかったが、子どもに対して無関心だった。

現在の困りごとと相談先
施設にいて自由が制限されていること。 自分でお金の管理ができないため大きな買い物をしたいときは一度職員に相談する必要がある。 困りごとはあるが、施設にいて以上仕方がないと思っているため、相談はしていない。 現在は施設職員からいろいろ対応してもらっているが、今後施設を出て自立したときにどうしたらいいのか不安がある。
子どもについての困りごと
子どもの不登校が一番心配。引っ越す前は学校に通えていたが、今の学校に転校してから不登校になっている。子どもからは「元の小学校へ戻りたい」と言われてしまった。子どもは元夫に対して悪い感情が少ない。日中は部屋に閉じこもっていて、イライラしていることが多い。逃げてこなければ子どもにこんな思いをさせなくてすんだかもしれないと申し訳ない気持ちがある。 子どもは、施設のカウンセリングとスクールカウンセラーを受けている。
支援につながったきっかけ
友達に話しをしたことで、DV/モラハラを受けていることに気づいた。友人が女性相談に相談することを勧めてくれたので、そこに電話で相談をし、警察とつないでもらったり、施設を紹介してもらったり、生活保護の受給が決まったりした。
支援を受ける上での困りごと
DVを受けている認識も乏しかったし、支援があることを知らなかった。 住民票のあるところと今住んでいるところが違い、あちこちに行かないといけなかったのが大変だった。 金銭的なこと。離婚のためにも弁護士費用などのお金がかかるので困った。
支援であつたらよかったもの
無条件で一時的にお金を貸してくれるところがあると助かる。 私たちのような状況にある親子の施設である母子生活支援施設は少ないので、増えるといい。 相談窓口の近くに子どもが遊べるスペースがあつたら、子どもと一緒に行くことができいい。 施設退所後のアフターフォローがあるといい。
その他意見
まずそもそも自分が困っているということを誰かしらに伝えないといけない。 広報などに無料での相談や支援について載っているが本当に無料なのかと不安に思ってしまう。 離婚に必要な手続きや書類を一括でやってくれる課があると、あちこち足を運ばずに済むと思う

※個人や支援関係機関等が特定されないよう複数の事例を組み合わせるなどして加工しています。

3. Cさん

【基本情報】

50 歳代 施設入所中

離婚 子なし

現在は週 5 日、1 日 8 時間で介護補助の仕事をしている

眠れない、ひざの痛み、高血圧等体調がすぐれないときがある

DV被害の状況

交際中からDVがあった。2人でワンルームに住んでいたのに、常に監視されて自由な時間がなかった。何でもスイッチが入るかわからないがいきなりDVが始まる。そのときは感情を「無」にして過ごしていた。自分の意見は一切聞いてもらえなかった。
就寝時には眠剤を飲まされていた。

現在の困りごとと相談先

経済面での困りごと。現在自己破産の手続き中。もともと金銭管理が苦手であり、独身のときにも一度自己破産をしている。弁護士に相談をしている。

支援につながったきっかけ

警察に逃げ込んだ。そこから医療機関を受診し、そのままシェルターで保護され、現在の施設へきた。

支援であつたらよかったもの

十分に支援してもらっている的特にはない。
経済的に苦しいが、生活保護は考えておらず、仕事をして借金を返して自立しようと思う。